

きょうと したぶん か し さく こん わ かい 京都市多文化施策懇話会 ニュースレター No.2

へんしゅう はっこう きょうと したぶん か し さく こん わ かい じ む きょく きょうと し そうごう きかく きょくこくさい か すいしんしつ
編集／発行：京都市多文化施策懇話会事務局（京都市総合企画局国際化推進室）

2010(平成22)年度第2回会議を開催しました

- <日時> 2010(平成22)年9月7日(火) 午前10時から12時まで
<場所> 京都市国際交流会館
<議題> コミュニケーション、子育てから見た多文化共生について



がいこくせき かた にほん せいかつ
外国籍の方が日本で生活するうえでは、コミュニケーションの円滑化や、言葉の壁を低くすることが重要です。今回の会議では、この言葉の壁と外国籍の方の子育てとを議題に取り上げ、以下の内容で議論を行いました。今後、懇話会として、よりよい施策を提言するための情報やヒントを得ることができました。

— 多文化共生保育 —

がいこくせき がいこく
外国籍や外国にルーツをもつ方との関わりを、積極的に生かしていく保育の取組について

— 外国籍市民等と医療 —

がいこくせき し みんどう あんしん いりょう
外国籍市民等が安心して医療サービスを受けるためのコミュニケーション支援について

— 外国籍等の女性・児童支援 —

ことば めん
言葉の面でハンディを抱えながら子どもを育てている方と、どのように関わっていくか

多文化共生保育についての報告 ～希望の家カトリック保育園の取組～

京都市南区にある希望の家カトリック保育園には、在日韓国・朝鮮人をはじめとする外国籍の児童や、外国にルーツをもつ児童がたくさん通っています。日本語と韓国・朝鮮語の両方であいさつが飛び交い、給食にもビビンバやキムチが出てきます。

保育園では月に2回、外国出身の方に母国の遊びや料理を紹介してもらい、子どもたちに多文化に触れ合ってもらい「多文化共生保育」の時間を設けています。これまで韓国・朝鮮をはじめタイ、フィリピン、中国、ロシア、インドネシア、フィンランドと色々な国の方に優しくされて、子どもたちは素直な心で多文化を感じています。地域のお祭りである「東九条マダン」や保育園の発表会では、子どもたちは民族衣装に着替えて踊り、多文化の喜びを表現します。

－ 担当委員の意見 －

- ・小中学校の教育現場では、多文化理解の取組は少しずつ進んでいると思うが、保育の現場にも注目してもらいたい。
- ・公園や小学校跡地などで催しを行い、多文化の試みを広げていきたい。そのためにはもっと地域の協力が必要だ。
- ・多くの人々が多文化を理解し、住みよい地域をめざして、市民と行政の共同作業を続けていきたい。

■ 希望の家カトリック保育園 ■

〒601-8006 京都市南区東九条岩本町28番地 (075) 681-6881

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/k-c-ho/index.html>

■ コラム ■

東九条マダン

「東九条マダン」は、毎年秋に南区の東九条で開催されている地域のまつりです。韓国・朝鮮人、日本人をはじめ、さまざまな人が民族性や国籍、障害の有無など立場の違いを超えて交流を深める場となっています。

今年11月3日に陶化小学校を会場に開催され、韓国・朝鮮の楽器演奏や舞踊、民俗的な遊びの紹介、インドネシアのガムラン演奏、韓国・朝鮮の楽器による大規模な「農楽隊」や和太鼓との競演など多数の演目が披露されました。韓国料理やタイカレー、たこ焼きなどの出店や障害者の共同作業所の物販店が並び、小学校のグラウンドは人々が立場を超えて集う「マダン」（韓国・朝鮮語で「広場」を意味します）となって賑わいを見せていました。



がいこくせきし みんとう いりょう ほうこく
外国籍市民等と医療についての報告
 たぶん かきょうせい とりくみ
 ～多文化共生センターきょうとの取組～

たぶん かきょうせい センターきょうとでは、にほんご じゅうぶん はな がいこくせきとう かた ぶん か しゅうかん も異なる日本でも医療サービスを安心して受けられるようにサポートする取組を行っています。ことば やぶん か こと し むん いりょう サービスを受ける際には、いろいろなかべ があります。

- 言葉・コミュニケーションの壁（症状が伝えられない、医師の説明が理解できないなど）
- 宗教的・文化的違い（食べ物や、異性の医師に関わる抵抗など）
- 治療・薬の違い（薬の処方量や、かかりやすい病気が違う）
- 医療にまつわる文化・習慣の違い（検査の量、受付の方法など）
- 金銭的な問題（病院側が治療費の未払いを心配して外国人患者の受診を避けようとするなど）

たんとういん いけん
－ 担当委員の意見 －

- ・ ボランティアではなく、せんもん しょくぎょう として医療通訳の制度を確立する必要がある。
- ・ 出産に際しては区役所、ほけん センターなど病院以外の機関にも関わるので、いりょうつうやく だけで対応できない。こういった場面でも通訳サポートの体制が求められる。

ほうじん たぶん かきょうせい
■ NPO 法人多文化共生センターきょうと ■

きょうと ししもぎょうく まんじゅ じちやう
 〒600-8104 京都市下京区万寿寺町143いづつビル6F (075)353-7205

<http://www.tabunka-kyoto.org/>

いりょうつうやく はけん じぎょう じっし りよう むりよう
医療通訳派遣事業を実施しています<利用無料>

にほんご をぼご としないし むん あんしん していりょう サービスを受けられるよう、きょうと し 日本語を母語としない市民が安心して医療サービスを受けられるよう、京都市では、NPO たぶん かきょうせい センター・きょうと、きょうと し こくさいこうりゅうきやうかい とし ない びやういん きやうどう 多文化共生センター・きょうと、京都市国際交流協会および市内の4病院と協働し、いりょうつうやく 医療通訳者を派遣するサービスを実施しています。

- たいおうげんご えいご ちゅうごくご かんこく ちやうせんご
 対応言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語
- はけんさきびやういん
 派遣先病院

きょうと しりつびやういん なかぎやうく 京都市立病院（中京区）	(075)311-5311
こうせいかいたけだびやういん しもぎやうく 康生会武田病院（下京区）	(075)361-1351
いじんかいたけだそうごうびやういん ふしみく 医人会武田総合病院（伏見区）	(075)572-6331
きょうと かつらびやういん にしぎやうく 京都桂病院（西京区）	(075)391-5811

- りようほうほう じぜん びやういん もうしこ してい にちじ つうやくしや はけん
 利用方法：事前に病院にお申込みいただくと、指定の日時に通訳者を派遣します。
- ※ たいおうようび びやういん こと
 ※ 対応曜日は病院により異なります。

がいくせきとう じよせい じどうしえん ほろこく
外国籍等の女性・児童支援についての報告
 ～京都 YWCA・APT の取組～

NPO 法人京都 YWCA・APT は、多言語による外国人女性向けの電話相談・支援を行っています。「日本の法律や福祉の制度について知りたい」「日本人との結婚・離婚について相談したい」「子育てに悩んでいる」など、相談の内容は様々です。

また、多文化共育プログラム（小中学校への出張授業、教材研究、ワークショップや講演会）など、異文化や異なる価値観を持った人を受け入れられる社会を目指した活動を行っています。

— 担当委員の意見 —

- 「日本人の配偶者」という資格で日本に在留している外国人女性のなかには、夫からのDV被害が原因で離婚に至ったり、更新手続きが出来なかったりといった理由で資格を失ってしまい、オーバーステイ（超過滞在）になってしまうケースがある。
- 外国籍の方に必要な情報を提供するために、同国人コミュニティがあれば力になるのではないかな。
- 外国人女性が抱えている問題について、民間・行政・地域・市民が協力し合い、援助する取組が求められる。
- 子育てと語学学習を両立させるのは本当に大変である。外国人が手軽にアクセスできる日本語教室が必要だ。

ざいだんほうじんきやうと
 ■ 財団法人京都 YWCA・APT ■

〒602-8019 京都市上京区室町出水上近衛町44 (075)431-0351

<http://kyoto.ywca.or.jp/>

しずおか し がいくじんじゆうみんこん わ かい い いん かたがた い けん こうかん
静岡市外国人住民懇話会委員の方々と意見を交換しました。

静岡市の「静岡市外国人住民懇話会」から7名の委員の方が、本市の懇話会会議を傍聴され、会議終了後、両市の委員が、懇話会の運営方法や、両市の在在外国人の状況について意見を交換しました。

京都市では韓国・朝鮮籍の方が外国籍市民全体の約6割を占めていますが、静岡市の外国籍市民は中国籍（全体の27%）、韓国・朝鮮籍（同20%）、

フィリピン籍（同15%）、ブラジル籍（同13%）と、比較的ニューカマーと呼ばれる方が多く暮らしています。

また静岡市の懇話会委員は全員が外国籍の方ですが、静岡市側からは「京都市のように日本籍の方も交えて懇話会を運営してはどうか」といった意見も出されていました。



「日本女性会議2010きょうと」で多文化共生をテーマにした分科会を行いました

10月1日(金)から3日(日)にかけて、男女共同参画について考える「日本女性会議2010きょうと」が開催されました。会議初日に「外国人女性の目から見た多文化共生について」という分科会が行われ、懇話会の委員5名が発表、ディスカッションを行いました。

3名の女性懇話会委員が発表を担当し、オールドカマー、ニューカマー、そして外国人女性を支援する側の立場からそれぞれ「すべての女性が生きやすい社会を目指して」をテーマに報告を行いました。

<日時> 10月1日 14:00~16:30

<場所> 国立京都国際会館

<出席者> 座長：小川委員

モデレーター：十倉委員

報告：金光敏委員、水鳥委員、吉村委員

会場参加・コメント：神崎委員、金洋子委員、ウリヤナ委員

報告1 (金光敏委員)：地域、子育ての中での多文化共生

報告2 (水鳥委員)：フランスにおける女性の就労について

報告3 (吉村委員)：外国人支援の現場から



分科会には、他府県の方を中心に定員の100名近い参加者が来られ、普段から多文化共生の活動などに関わっておられる参加者も、そういった話題に馴染みがないという方もおられるなか、活発な質問・議論がなされ、幅広いご意見を頂きました。

— 各委員からの意見 —

○赤ん坊の頃から人と人との触れ合い、多文化の経験
をすることが大事。そういった経験が多様な価値観
や考え方を認め合う大人、社会をつくっていくはず。

○外国籍市民を取り巻く環境には言葉の壁、制度の
壁、心の壁がある。地域で孤立しながら子育てをしている外国人女性には、一言声をかけてあげ
るだけで救われるような人もいる。少しおせっかいと思われるくらい、積極的に声をかけていっ
てほしい。

○日本にはまだまだ保育所など、社会全体で子どもを育てる仕組みが不足している。また、母親
が社会に出て働いた方がいいという考え方も十分に広
がっていない。



— 会場からの質問・意見 —

○地域で日本語学習指導をしているが、外国人女性の置
かれている状況は厳しい。子どもを抱え、相談相手は夫
以外いないというケースも多いが、支援しようとしてもプライバシー、個人情報の壁が厚い。

○外国出身の女性が結婚して近所に住んでいる。子どももおられるので、子ども会や地域のイベン
トにも誘うのだが、言葉が通じないのか、なかなか心を開いてくれない。

○外国籍の人が必要としている情報が、本人たちのところに届いていないのでは。

○日本では、子どものしつけは母親の仕事、という意識がまだ強く残っている。

— まとめ —

○地域住民・民間団体・行政がつながりあうことで、誰もが自分の能力を発揮できる「エンパワメ
ント」される社会を目指していきたい。

○「女性はこうあるべき」という決め付けを揺るがすことと、「～文化の人は、～国の人はこうだ」と
決めつけないことは、つながっている。在日
外国人が生きにくいような社会は、実は日本人に
とっても生きにくい社会である。



○地域の住民全員が日本人ではないとしても、
全員が「日本社会人」だと言うことはできる。
そして皆が多文化の共生する日本社会の担い手
である。

「日本女性会議2010きょうと」多文化共生分科会の参加者アンケートを実施しました

分科会終了後に実施したアンケートでは、多くの皆さんから回答をいただきました。ほとんどの参加者が京都府以外からお見えになっており、ご自身が国際結婚をされている方や外国人支援のボランティアをしている方など、日常的に外国籍の方と交流が「ある」という回答が半数近くに上りました。

— アンケート結果 (回答数75) —

・ お住まいの都道府県 : 近畿圏26, その他49

・ 外国籍の市民や海外からの観光客と日常的な交流が

「ある」: 30 「ない」: 35

⇒ 日常の交流のなかで助けられた、生活にプラスであると感じたことが

「ある」: 26 「ない」: 4

(例: 多様性を知る楽しみがある。他国を知ることで、自国の文化も改めて知ることができる。外国の料理を学び、食文化が豊かになった。同じ国出身の人でも十人十色、という当たり前のことを認識できた。)

⇒ 日常の交流のなかで困ったことが「ある」13 「ない」17

(例: 言葉が通じないこと、金銭感覚の違い、食事や話し方、交通マナーや時間感覚の違い、おおらかというカルースなところが、国民性なのか個性なのか分からない)

— 参加者からの意見 —

- 平日頃から、外国籍の方と地域でふれあうことが大切だと改めて感じた。
- 女性会議の場で、「多文化共生」という意外な話を聞いてよかった。こういった施策に取り組んでいるのは、さすが京都、と感じた。
- フランスなどにならって、女性が子育てをしながら働けるような制度が日本でも充実すると良い。女性に仕事か育児・家事かの選択を迫る社会ではいけない。
- 一口に「外国籍」と言っても京都と他府県とでは状況も異なる。京都と異なり、労働者として最近日本に来た外国人が多い地域では、必要な取組も変わってくる。
- 皆さんのお話に感動した。学習塾で講師をしているが、本日の多文化共生の取組を、子どもたちにも伝え、広げていきたい。

■コラム■

京都市国際交流会館オープンデー

11月3日に京都市国際交流会館の「オープンデー2010」が開催され、世界の料理、音楽や踊りなどを楽しむ1万人以上の来客でイベントは大盛況となりました。

世界各国の料理を味わえる「万国屋台ECO村」には17ヶ国21の屋台が出店し、南米やアフリカなど世界の音楽や踊りが競演する「グローバルステージ」が設けられ、英語による座禅講座や世界各国のクラフト作りなど、日本人も外国籍の方も、大人から子どもまで楽しめる様々な催しが行われました。



事務局からのお知らせ

本ニュースレターや懇話会に関する御意見などがございましたら、下記までお寄せください。
(懇話会の会議はどなたでも傍聴することができます。)

また、懇話会ニュースレターのバックナンバーを御希望の方は、下記までお問い合わせください。

京都市多文化施策懇話会事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

京都市総合企画局国際化推進室 TEL075-222-3072 FAX075-222-3055

ホームページ：<http://www.city.kyoto.jp/somu/kokusai/>

Eメール：kokusai@city.kyoto.jp